

第3回 松田町総合戦略審議会 議事録

1. 日 時 平成27年11月10日（火）10:00～12:00
2. 場 所 役場4階
3. 出席者 委 員：別紙「委員等名簿」のとおり（西田委員、松本委員欠席）
町 側：別紙「委員等名簿」のとおり（町長、参事ほか）
事務局：政策推進課（吉田課長、椎野課長補佐、柳澤係長、矢口主査）
4. 配付資料
 - ・次第
 - ・松田町人口ビジョン・総合戦略骨子案（資料1）
 - ・松田町総合戦略計画構成（案）（資料2）
 - ・松田町総合戦略に位置付ける事業（案）（資料3）
 - ・参考資料：第2回 松田町総合戦略審議会議事録
 - ・参考資料：広報まつだ10月号

【概要】

司会進行（吉田課長）

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 町長あいさつ
4. 議 事

(1) 松田町総合戦略骨子案について

- ・事務局（政策推進課）より、前回（9月16日）の総合戦略審議会の開催以後での計画の策定に向けた動き（庁内プロジェクト会議・まちづくり座談会）等についての説明を行う。
- ・まちづくり座談会の概要及び総合戦略骨子案についての説明を行う。

高須 委員：資料7頁の工業については起業への支援もあるが地元企業への支援についてもトータルの支援を進めていくことを考えている。

金融機関としても神奈川県（総合戦略）との方向性等が合えば同調もしていくとともに、町の独自性も盛り込んでいくことも大切であると捉えている。また、農業の6次産業化を進めていくなかで、農業分野（農業水産省管轄、厚生労働省管轄）で漢方薬の栽培の取り組みを進めている事例等もある。未病の取り組みでは松田町においても取り組んでいくことができるのではないかと考えており、奈良県や富山県等では行政と民間とが連携した取り組みが進められている。

その他に民泊の活用した交流の拡大（体験型の民泊）なども横須賀市で進められている。

久郷 委員：民泊については、民泊に関する条例化（宿泊日数を規程として定める等）を平行して進めていく必要があり、都区部では大田区が条例化されている。農業分野における薬膳料理や薬草栽培等への取り組みが進められているが、現在の県西地域にはあまり適してはいない状況ではある。また、農林水産省が厚生労働省の分野に関わる範囲での予算化の動きがあり、

機能性表示食品の認定や支援等として全国 10 地域を指定し、地元消費と合わせた調査が行われている。

そうした中では、地場産品を健康分野でのブランド化も良いかと捉えている。

宇佐美委員：計画全体としては連携中枢都市圏構想の動き等もあるので、国の動きをはじめとして、広域（隣接）の市町村の動きについても把握しておく必要があるのではないかと捉えている。

教育分野では、子育てや住環境、自然環境等のなかで、子どもの「水遊び」「火遊び」「泥遊び」といったことが身近な環境の中でなくなっている。

特に、小田原市や南足柄市、大井町、二宮町ではプレイパーク（公的遊び場）の整備が進められ、観光にも結びついている。

観光分野では、山北町観光協会ホームページのリニューアル化の作業が進められており、これまでのものよりも充実したもの（サイト）となってきた。こうしたものとの連携強化を図りながら、松田町の情報発信等も行っていくべきではないかと考えている。

古舘 会長：「おもてなしのまち」についてはどうでしょうか。

地域創生との関係がわかるかどうか、そのあたりも含めていかがでしょうか。町外からの人は、何かをしてもらえるのではないかと思います、本町を訪れた際にどういう町としてもてなすのか。

宇佐美委員：「おもてなし」は昔からの日本の特徴であり、気を使うものではなく、気を配るもの（目配り）である。

こうしたことは、教育の一環として「おもてなし教育」に町全体として取り組んで実践していくべきであると捉えている。

久郷 委員：松田町に住んでもらう・住み続けていくのは町外に対するメッセージであり、町民の暮らしの満足度の高さ（実感のあること、充実していること等）の現われでもある。

住んでいて安心・安全、子どものあいさつ等の取り組みが重要である。

平川 委員：松田町としても地域の資源となるハーブ園の活用や未病等への取り組みを進めていく必要がある。

また、金融機関として工業分野に限らず、幅広く支援や協力をおこなっていければと考えている。

古舘 会長：小田原市で起業塾が開催され、わが国が海外への依存が高いエネルギーや食品（ワイン）の分野での実践、新しい起業に向けた動きが始まってきている。

村山 委員：松田町の特産品としての「みかん」を上手く活用していくべきではないかと考えている。また、鳥獣被害等への対策も重要である。

事務局：鳥獣被害等への対策は全国的な問題でもあり、農協等とも連携して取り組むとともに、ハンターの増員や捕獲支援、周辺市町村との連携を図りながら対応している。

宇佐美委員：空き家バンクについては、お試し宿泊など観光的視点も視野に入れながら、取り組んでいくことも重要であると捉えている。

事務局：現在、大学等との連携も含めた取り組みの検討しているところである。

例えば、お試し居住＋メディアによる観光化、大学生と連携してのリノベーションによる定住化、学生が地域に滞在することからの第二のふるさととしてのイメージづくり、空き家バンクの登録数が少ないことから宅建協会との連携に

よる不動産の情報提供等を想定している。

事務局：KPI（重要実績評価指標）についてはどのように設定すればよいのか。

高須 委員：幾つかのKPIを設定したほうが良いと考える。

大項目・中項目に対するものがあれば、その後のPDCAの評価につなげていくことが可能となる。

古舘 会長：7頁の産業に関わる項目については、松田町の将来の方向性等を見定めながら変更した方がよいのではないかと考える。

(2) 松田町人口ビジョン骨子案について

・事務局（都市計画センター）より、松田町人口ビジョン骨子案についての説明を行う。

古舘 会長：増加人口についての考え方は、どうなっているのか。

事務局：人口減少傾向を早めに収束させ、社会増として若い世代の転入を想定している。

久郷 委員：神奈川県としても国が掲げる将来（H72）の1億人との整合性を図りながら、社会増の方策の検討を進めおり、県内も整合性を図っていきたいと考えている。都市部もあるなかで自然増による人口増加を進めていくのは難しい状況ともなっている。

松田町の総人口規模10,000人をどこで確保していくのか。

本山 町長：松田町としてどのような役割を担っていくのか、広域として担うことや松田町として担うことを示していく必要があると捉えている。

松田町には駅が2つあり、町に住みたいと思えるためには仕事、暮らしの充実を図っていくべきであり、松田町で生活のできる産業づくりを進めていく上で、個別ではなく1次産業×2次産業×3次産業による6次産業化による産業づくりを目指していくべきでもあると捉えている。

久郷 委員：富士山が見える風景等の地域性を活かしていくべきである。

(3) その他

特になし

6. 閉 会